

## 特集 「アダム・スミス文庫とデジタルアーカイブ」

東京大学経済学図書館における資料収集の歴史は1世紀以上に及びますが、その初期には、西洋における最新の学問手法を導入するために、現地で刊行された古今の図書・雑誌類を網羅的に備えることが大きな任務とされてきました。この収集活動における一つの象徴的な存在が、1920年に経済学部の教授であった新渡戸稲造より寄贈された、アダム・スミスの旧蔵書です。「アダム・スミス文庫」と名付けられたこの資料群は、しかしながら、管理の難しさもあり、必ずしも学問研究に広く活用されてきたわけではありませんでした。また、震災・戦災や経年による劣化で、物理的にも良好とは言い難い状態にあります。

東京大学経済学部資料室は、東京大学経済学図書館の一部門として、資料の保存を任務の一つとしています。その活動は、保存と利用を連動させるという方針のもと進められていますが、このアダム・スミス文庫の現状の改善については、以前より、優先して取り組むべき課題として認識されていました。そうした中、2012年度になって、日本学術振興会よりデータベース作成のための補助金（研究成果公開促進費「東京大学経済学部所蔵西洋古典籍目録・画像データベース」代表・本研究科教授・小野塚知二、課題番号248021）の交付を受け、アダム・スミス文庫を中心とした、図書館が所蔵する西洋古典籍（19世紀以前）の一部が、「西洋古典籍デジタルアーカイブ」として、ウェブ公開されることになりました（2013年3月31日公開）。

本館では、近世の西洋古典籍を対象としたデジタルアーカイブが、国内ではそれほど一

般的ではないことに鑑み、その意義や作成過程を広く伝えるために、記者発表の場を設けました（2013年6月18日）。そこでは、まず、経済学図書館の谷本館長より、図書館の概要とデジタルアーカイブ作成の背景について、次に、小野塚教授より、経済史・経済学史の立場からその公開の意義について、最後に、資料室の矢野特任助教より、デジタルアーカイブ作製の工程とその利用方法について、説明がなされました。

本特集では、この3名による記者発表の内容に加えて、横浜国立大学の有江教授よりアダムスミス旧蔵書に関する一文を寄稿いただいています。その経緯を以下簡単に記しておきます。このデジタルアーカイブの公開と前後して、小野塚教授より、アダム・スミス旧蔵書がこうした形で広く公開されることになったのを機に、現代の社会的・学問的要請に応えられるような新しい目録を作成できないだろうか、という提案がありました。その結果、学内外の関連する研究者と、資料室員を中心に、研究会が組織されることになりました。これまで、既に3回の研究集会が開催されましたが、有江教授の寄稿文は、ここでの報告に基づくものです。なお、この特集に続く、野原氏の論考も、この研究会における報告に関わるものです。両先生には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

こんご、資料室では、アダム・スミス文庫に限らず、順次、西洋古典籍のデジタルを進める予定ですが、こうした資料の公開が、学問研究の進展のひとつの契機となることを願って止みません。  
(編集部)